

日本語版に寄せて — 著者まえがき

日本語版の読者の皆さん、こんにちは！

本書は Linux および UNIX システムプログラミング API の (ほぼ) 完全な解説を目標とし、内容は広範囲の Linux プラットフォームに通用するものです。Linux プラットフォームは一般的なサーバシステム、メインフレーム、デスクトップ環境から今日の多種多様な組み込みデバイスまで多岐に渡ります。さらに、Android の心臓部も Linux カーネルですから、Android デバイス向けの開発にも通用する内容です。

本書日本語訳の元となった英語原書を出版したのは 2010 年末でした。その後 Linux カーネルは 11 回も新バージョンをリリースしました (2.6.36 から 3.6)。しかし、本書の原書も日本語訳もその内容が古びることはありません。また、今後何年も通用する内容です。これは、Linux カーネル自身はきわめて速いペースで開発されるにも関わらず、カーネルユーザ空間の API はほとんど変更されることがないためです。API が変更されない理由は、カーネルとは本来ユーザアプリケーションを「安定して動作させる環境」を提供することを目的に設計されるという事実に起因する当然の結果です。頻繁に変更される API など複数のカーネルバージョンで動作するアプリケーションでは使い物になりません。カーネルバージョンが 11 回も更新されても、API はほとんど変更されません。変更されるとしてもほぼすべてが拡張や新規インタフェースの追加であり、既存のインタフェース自体 (つまり本書が解説する内容です) が変更されることはありません (繰り返しになりますが、これはカーネル開発プロセスから生まれた自然の流れです。Linux カーネル開発者は既存のインタフェースを損ねないよう、入念かつ多大な努力を払っています)。英語のみですが本書の発行以降に加えられた API の変更は著者のウェブサイトにもまとめてあります (http://man7.org/tlpi/api_changes/)。

著作が外国語に翻訳、出版されるだけでも大変名誉なことですが、ここに日本語版翻訳者千住治郎へ特に賞讃と感謝を述べたいと思います。カーネル開発者でもある彼は本書日本語版でも卓越した成果を上げ、特に翻訳過程が並外れていました。文章を翻訳するだけでも、一般的読者、いや注意深い読者でも気付くかどうかというレベルの英文法の誤りや誤植をごく自然に多数発見、報告してくれました。「上流工程成果物」の作製者である著者にとってそれ以上に意味があったのは、原書に対する技術的な誤りの指摘や改善提案でした。マイナなもの以外にも、きわめて深い技術的知識を必要とする内容のものもありました。他の読者、翻訳者からも誤りの指摘や改善提案は多くあり、改訂版に反映していますが、千住治郎が最大の貢献者です。その量も、正誤表内で単純に数をカウントしても 2 位以下を大きく引き離しています。Linux に関する彼の深い知識と細部にまで注意を怠らない努力により、本書「The Linux Programming Interface」の日本語版は優れた翻訳書になったことは自信を持って断言できます。

1500 ページもの翻訳は大作業です。苦勞しながらも一年を僅かに越える程度の短時間で作業を終えられた翻訳者(そうここでも!)ならびに出版者の方々に感謝します。翻訳ならびに原書出版、さらに原書に貢献された多くの方々の作業の成果が日本語版読者のお役に立つことを願っています。

Michael Kerrisk

2012 年 10 月、ドイツミュンヘンにて